

平成 30 年度第 2 回子ども読書活動推進会議議事録

| | |
|----------|---|
| 日時 | 平成 31 年 2 月 8 日（金）10：00～12：00 |
| 場所 | 福岡市役所 1504 会議室 |
| 議題 | ・福岡市子ども読書活動推進計画（第 3 次）の進捗状況について ・（次期）第 2 次福岡市教育振興基本計画（概要版）について ・子どもの読書量について |
| 公開・非公開の別 | 公開 |
| 傍聴人の数 | なし |

1 開会

事務局挨拶

2 委員から活動等紹介

委員長 子どもと読書の大切さを伝えるための啓発活動として、各地で講演、講話をしている。また、ボランティア養成講座の手伝いなどもしている。

副委員長 昨年の 1 月に福岡で福岡市教育委員会と日本小児科医会の共催で第 9 回子どもとメディアフォーラムを行った。通常は学校などで子どもたちのメディア啓発をやっている。

今の子はメディアにはすごくのめりこむけれども、書籍にはなかなかのめりこんでくれる子が少なく、どう啓発していこうか悩んでいる。

委員 12 月の福岡市子ども読書フォーラムで市内中学校数校の生徒たちが、小さい子どもたちに読み聞かせなどを実施した。非常に良い取り組みだが、あまり周知されていないのもっと多くの人に知ってもらいたい。中学校の図書館教育研究会では担当教諭に研修を実施、また、生徒会活動で集まった図書委員たちの交流やビブリオバトルなどを行っている。小学校と中学校でかなり読書力に差がある事が非常に残念である。もっと原因について考えていかななくてはならないと思う。

委員 本年度は学校図書館を調べ学習に活用することをメインに図書館教育研究会をやってきた。11 月には学校図書館研究大会をなみきスクエアで実施した。図書館運営などの取り組みについての発表やたくさんの分科会に 300 名を超す先生が参加した。絵本作家のきたむらさとし先生に講演をしてもらい、良い時間を過ごすことができた。

委員 学校司書として、小学校2校を年間61日ずつ、中学校2校を年間12日ずつで計4校を受け持っている。中学校が1校で計3校の人もいるので、3～4校を掛け持ちでやっている。

本年度担当していた4校全部の勤務先が変わったが、一年目ということで図書館の状況や蔵書の把握、データベースの不備修正などを行った。

学校司書全体としては前年度に続き、月に1回、研修会をしている。1月は、図書館児童サービスの専門家の赤木かん子さんのお話を伺った。

学校司書もそれぞれ一生懸命子どもたちのための読書活動推進を行っている。

委員 前年度まで障がい児教育、特別支援教育の担当課長として関わってきた。肢体不自由の特別支援学校の読書活動はどのようなかと思っていたが、ICTの発達によって寝たきりで表出のない子どもたちも絵本を見ることが視線入力で分かってきた。表出は難しいが、内面的には絵本や本の影響を受けていることもあり、紙媒体にこだわる必要はなく、音の出る絵本や視線を通して自分で音楽を奏でることもできるので、ますます読書活動は障がいの有る無しにかかわらず、しっかり環境整備をやっていかななくてはならない。

特別支援学校には多様な学びの場がある。特別支援学校だけでなく、普通小中学校における特別支援学級であったり、通常学級には6.5%の発達障がいのある子どもたちがいる。場所は様々だがそういう子に配慮した読書プランなどの整備が必要。紙媒体にかかわらず、例えば点字、手話のついた本、触る本、録音本、マルチメディアのDAISY（デージー）図書を積極的に活用できる情報発信が必要だと思う。

委員 PTA協議会は、福岡市立小学校、中学校、特別支援学校の先生と保護者が子どもたちの健やかな成長を考えている団体である。

最近スマホなどでゲームをする子が増えていることに保護者全員が危機感を持っている。本を読むことは素晴らしいと保護者は考えていると思うので、子どもたちにはどんどん素晴らしい本を読んでもらいたいと思う。

委員 ブックスタートでは、4月に8月から配布する本の選定会議があった。博多区所属なので博多区の状況だが、ボランティア一人に対して5人の保護者たちと話している。絵本を紹介して、わらべうたを歌って図書館の紹介をしている。保護者との1対1が理想だが、2対1、3対1にしていけたらと考えている。

12月の読書フォーラムに参加してとても楽しい一日だった。

委員 小学校で読み聞かせのボランティアをしている人たちのために横につながろうと始まった会。毎年6月にボランティア初心者のための研修

会を、1月にはプログラム作りや科学絵本の学習会など、アンケートの希望に応じた学習会を実施している。

15分程度の朝読書や中休み・昼休みの後などの短い時間で読書の時間をとっている小学校が多く、絵本を選ぶことが課題になっている。選本の手掛かりになるようなブックリストを作っている。

委員

福岡おはなしの会は、総合図書館でのおはなし会を中心に活動している。30年度は、毎週日曜日のおはなし会を幼児向けと小学生向けとに分けて各30分ずつ、また毎月1回赤ちゃんとその保護者に向けてのおはなし会、それから、5月に子どもの日おはなし会と12月にクリスマスおはなし会、夏休みには一日おはなし会を実施した。また、総合図書館主催のボランティア講座への協力として、読み聞かせ講座とストーリーテリング講座で実演などを行った。「モデル児童図書リスト」作成への協力として推薦図書の選定も行っている。昨年12月の子ども読書フォーラムでは、おはなし会とわらべうたの会を実施。読書フォーラムには、毎年とても楽しく参加させてもらっている。

委員

青葉公民館ではボランティアが全部で13名、毎週土曜日には3名が貸出や本の紹介などを行っている。年に一回全員集まり、来年度の方針検討や反省会を実施している。

みんな同じTシャツを購入し、それを着て読み聞かせや紙芝居、手遊びをやったらとても好評で、ボランティアも生き生きしていて、文庫だけではいけないんだと確認した。

委員

総合図書館で行政や学校や地域文庫に本の団体貸出をしている。先月実施の地域文庫交流会では、ユニバーサルデザインの講演をしたが、詳しくは知らなかったという方も多くて、なかなか好評だった。

図書館職員として子ども読書フォーラムに関わり、ここ数年はおとうさんおはなし会で参加している。いつも何か力強い元気をもらっている。

福岡市図書館の有志の者で行っている「YAを勉強してみる会」に所属して、ヤングアダルトについて研究や勉強、イベントでYA世代と交流も行っている。

委員

公民館は1小学校区に1館あるが、文庫活動への関わりは様々。小田部公民館ではボランティアとの関わりの中で育ったシニアの男性3人と女性6人でそれぞれ活動してもらっている。

公民館の事業として文庫の紹介をしているが、夏は子どもたちが本当に怖いと思うような暗い講堂の中で「怖いお話会」を親子向けに実施している。

公民館の予算がないところでは地域の援助で本を購入、また、総合図書館やスタンバード文庫などで本の補充をしている。

委員

書店がだんだん減ってきて、だいたい今福岡県が 200 店余り。以前の 400～500 店が半分になっている。跡取りがないところに高齢化が進み、また、みんな本を読む機会が減ってきたからだろう。

本を読む習慣は小さい時からやらないと全然できない。20 年後、A I の時代に人は何をするか。物を創造すること、考えることをしないと手足だけを動かす仕事は無い。

書店の若い跡取りから、これから本屋は何をやっていけばいいのか尋ねられたら「本の読み聞かせをするといい」と答えている。今は小学校やあちこちでボランティア団体に所属し、校長先生や皆で授業中読み聞かせを行っている。本屋もそういうことに参加しながら、地域の皆さんと一緒に本屋を失くさないようにしていきたい。

委員

小中学校になっての本離れが大きな課題と聞いているが、できるだけ大人になっても活字が読める子に育てたいと思う。

子どもから、日曜日にお父さんにも読んでもらったなどと聞く。絵本の楽しさ良さを知ってほしいと、お母さんが通る場所に必ず絵本のコーナーを設置し、帰りに時間があれば読んでもらっているの、少しはお母さん方も絵本に興味を持ってきたと思う。同じ絵本でも、保育士が読むのとお母さんが読むのでは、子どもの受け取り方が全然違うと思う。お母さん方にどのように啓発していくのが課題。

3 報告

(1) 福岡市子ども読書活動推進計画（第3次）の進捗状況

報告資料に基づき、事務局説明

委員長

自由に意見をお願いします。

委員

小学生のとき読書リーダーや図書委員をしているような子でも中学生になると読みごたえのある本を読まなくなる子も増えてくる。本が好きでよく読む子でも、読む本が二極化していると思う。ひとつは本格的なファンタジーなど読みごたえのある本、もうひとつは、バイオレンスを描いて引き付けるが軽めの本。

現役の図書委員などの中学生がすすめる本をHPなどに載せてはという提案について、よく本を読んでいる子でも、その子が読んでいる本はさまざまであり、必ずしもHPに載せて紹介してよい本とは限らないと思う。この子が紹介したものは載せて、この子が紹介したものは載せないとできるのか。たとえば、中学生が飛びつきやすい本にはバイオレンスが語られているものもあり、そういった中学生に薦めたいとは思えない本を図書委員の子どもたちが推薦してきたときに、その本の内容をいつも確認し判断できるのか不安に思う。

委員 小学校には図書委員会、中学校には図書専門委員会があり、いろいろな本の紹介についても教師が発達段階に応じた指導をしている。例えば、5、6年生が1年生向けに本を紹介する時には、1年生にとって果たして適切な本なのか指導していると思う。ネットに関しては、情報をしっかり判断してどう発信するかが課題といえる。

(2) (次期) 第2次福岡市教育振興基本計画(概要版)について
読書関連事項を資料に基づき事務局説明

委員長 ご質問、意見がある方はお願いします。

委員 学校図書館の充実はいかに具体的なか。

委員 環境面としては、学校図書館の整備の充実や児童生徒と学校司書等の人のかかわりなどについても総合的に考えている。計画の中で、教育委員会として、読書活動については大事にしているところであり、予算面についても少しでも多くして充実させていきたいと考えている。

事務局 市役所の仕組みとして、予算は議会を通過しないと認められないが、読書活動推進についても予算計上しているところである。

委員長 学校図書館整備のため地方交付税がきているはずなので、できるだけ多く学校図書館に使われることを期待している。

委員 スタンバード文庫は、始まった時にはとても充実した活動だと思ったが、その第2弾など考えているか。

委員 全公民館に未就学児を対象に100冊のスタンバード文庫を配本している。本の傷みや紛失などがあれば補填している。加えてスタンバード文庫をもっと知ってもらうため、文庫を活用した読み聞かせ講座などを実施している。スタンバード文庫を知って活用してもらい、読書活動につながる次の取り組みにシフトしていく展開は、様々な声を聞いたうえで考えられると思う。

委員 スタンバード文庫を活用できる第2弾があればいいと思う。

委員 読み聞かせなどに熱心な親や子どもたちしか来ない、スタンバード文庫についても熱心な取り組みをされている公民館と、そうでない公民館がある、などの課題もあり、利用者や公民館の方の声を聞きながら活用を進めていきたい。公民館によっては、スタンバード文庫だからスタンバードくんをポップや入口の館内表示に使ったりしている。子どもたち

にとっても人気のキャラクターなので、大いに活用していただきたい。

委員 公益社団法人日本小児科医会発行のメディアのチラシをブックスタートの袋の中に入れたらよいのではないかと思う。できれば、赤ちゃんの時代からスマホなどが有害であることを知ってほしい。

委員 平成 29 年 7 月から「スマホに子守をさせないで」というチラシを母子健康手帳に印刷し、妊婦の皆さんに交付する際に注意喚起を図る取り組みを実施している。

委員 朝の番組で、高校生がスマホをずっとやっていたら、ある日突然人が二重に見えるようになったという弊害もあると報道していたので、早いうちから知らせておく方がいいと思う。

委員 先ほど母子健康手帳交付の話をしたが、乳幼児健診や保育所のクラス懇談会など、様々な機会を利用してメディアが子どもの発達や発育に与える影響などの啓発を親にしている。

委員 メディア啓発は、乳幼児期から大事で、母子手帳から始まり、小・中学校時期にもメディアリテラシー教育の授業で、スマホやパソコン、SNS の使い方などの指導や、学校と P T A が一緒に行う「ケータイ・スマホ夜 10 時電源 O F F 運動」、保護者へ「中学生にスマホは本当に必要か」というチラシを配布し、家庭でのルールづくりなど啓発に取り組んでいる。

委員長 メディアとの接し方は人類の課題と思っているので、しっかりといろいろなところで取り組んでいかなければいけない。

4 協議

(1) 資料 3 子どもの読書量について

資料に基づき、小中学校読書冊数の全国との比較等、事務局説明（省略）

委員 小学校では何があっても本を読んでいるのか、中学校では何があってもこんなに減るのか考えていかなければいけない。図書館に行くのは小学校までで、中学校では行く習慣はなくなる。本がたくさんあっても読まないで、子どもたちが図書館に来たくなるアイデアを作っていく、学校図書館運営の中心となる人物を置く必要があるのでは。例えば町の本屋さんが中学校に来て一緒にやっていくなど大胆なアイデアが必要。

委員長 小中学校 1.5 校に 1 人学校司書を置くという目標があり、予算がついていたと思う。人の問題と、学校と地域との連携、もしかすると学校

図書館の地域開放などもありえるかもしれない。もっと殻を破るような発想を実行するためには、そこに力を注げる人材が必要だと思う。

よみボラネットから中学校へどの程度ボランティアが入っているか。

委員

よみボラネット会員のうち、中学校で読書ボランティアをしているグループは2、3校。福岡市全体でどのくらい中学校に読書ボランティアが入っているか把握はできていない。

ある中学校でおはなし会をして本の紹介をしたら、ちょうど学級文庫にある本であったため、子どもたちがすぐに手に取り読むことができた。本を手渡すきっかけづくりがもっと中学校でも必要ではないか。学校司書が常時いるのが一番いいと思うが、全校配置が難しければ、それに代わる、子どもと本を結ぶコーディネーターのような人が地域にいたらよいと思う。

委員長

小学校では本に興味を持つきっかけ作りが行われるが、中学校になると、そのようなことが若干乏しくなっている傾向が考えられる。

委員

小学校の読み上げ冊数が中学校より多いので頑張っていると思われているが、読みの質という面では小学校も充実しているとは言えない。6年生で絵本を読む子もいる。発達段階に合わせた学級文庫を用意するのも一つの手と思う。読書の質を上げることが課題。中学校と連携していくことも大事と感じた。

委員長

読みの質はとても大事だが、読書力の発達段階というものは一人ひとり子どもによって違いがあるので、一律にはいかない難しいところ。

YAサービスについて図書館から何かあるか。

委員

福岡市図書館では、各館にYAコーナーを設けている。また、YA世代にむけたイベントとして、早良図書館では閉館後にビブリオバトルを開催したり、博多図書館ではYA世代に向けた読書会を企画している。YAに関する勉強会に参加して、TRPGという机上のゲームを図書館で開催、12月に2回目を実施し、好評だった。3月に3回目を実施予定。

参加した子にどんな本を読んでいるかを確認するため、TRPGの際に、好きな本を持ってきてもらうようお願いしたところ、ほぼ全員本を持参し紹介してくれた。潜在的に本好きの子はもっといるのではないか。TRPGは需要があるかなと思う。読書がちょっと苦手な子も誘って来てくれたらいいと思う。

委員長

中学校とうまく連携できるといい。

- 委員 他都市でも行っている、ボードゲーム大会なども開催したい。
- 委員長 朝の読書を中学校では取り入れているとは思いますが、学力を重視されるようになって頻度が少なくなる傾向はあるか。
- 委員 数字的にはそういう傾向があるとは聞いている。
- 委員 平成 28 年度国の調査では、全校一斉で毎日読書活動をしている福岡市の小学校は 129 校、中学校は 53 校。小学校でも午前中に 5 時間授業をする学校が若干増えてきて、帯単位で、15 分、20 分の読書活動をしなくなった学校も出てきている。
- 委員 教育委員会がもっと国語力に力を入れてほしい。受験勉強で国語を教えてくれるところがなく、自分でするしかないから国語の力が上がらない。国語力を評価しないといけない。
- 委員長 国語力は読解力ととらえた方がいいのではないか。「A I v s 教科書を読まない子どもたち」という本も話題になった。読書力を高めることが読解力を高めることにもつながっていくのではないかと思う。
- 委員 私が P T A 役員をやっていた頃は保護者のための文庫があったが、今は保護者が本を手にしたり親しんだりする機会が少なくなっている。子どもたちもだんだんもそうなるのかと危機感を感じている。
- 委員 P T A でノーメディアやケータイスマホ 10 時電源 O F F 運動などいろいろやっている中で思ったが、そういう時にこそ本を読むことを強化していきたい。
- 副委員長 中学生になって読書量が減ったのは、小学校の時までは読書をしていた子たちがスマホの魅力に取りつかれ、本を読むことが億劫になっているのでは。
大人自身が本の魅力を子どもたちに語っているだろうかと反省する。大人自身が本の魅力を語るなど、今よりももう一歩考えていこうという人たちが増えてくると、少しは変わるのかなと思う。
中学校では図書館に行くやつは暗いやつと思う子どもたちがいるので、そういう文化を変えていきたい。中学校の図書館が魅力的になると良いと思う。
- 委員 I C T と相乗りして、図書館に行っ本を読むことがかっこいいと思うようにする。

- 副委員長 それは文化度がすごく高いことだと思う。
- 委員 市民が何冊読んでいるのかデータはあるのか。
- 委員 貸出冊数という形でしかないが、今日は数字を持ち合わせていない。
- 委員長 貸出冊数は福岡市の一人あたりは多くない。
- 委員 市民一人当たりの貸出冊数は2.5冊程度だったのではと思うが、資料を持参していない。
- 委員 大人の1年間の冊数か。
- 委員 平成29年度の市民100人当たりの個人貸出冊数は258.6冊である。なお、団体貸出の利用冊数が入っていないので、その数字だけでは判断できない。
- 委員長 同レベルの図書館と比較して、やはり少ないと思う。
- 委員 先生が読書をしていない。教育指導書は読むが教育以外の本を読むかと聞いたらほとんど読んでいない。理由の一つが、忙しいから。もう少し先生方が教育書以外の本に親しんで、本の良さを子どもたちに伝えることをしないと、子どもたちに読めと言っても難しいと思う。
- 委員長 大学で司書教諭の科目を教えているが、この内容は教員養成課程を勉強している全ての教員志望の方に伝えたいと思っている。子どもと本のことをある程度知っておかないと、子どもたちに本の話ができない。
- 委員 読書量についてだが、小学校の読み上げ冊数は低、中、高学年から抽出の平均になる。福岡市の小学校の1、2年生は国語の時間に学校図書館に来て読書時間を確保している。中学校になっても本が好きな子は毎日図書館に来ているが、一回も入ったことがない、全く利用したこともなく卒業する子もいると思う。
- 学校司書として中学校へほぼ月1回行くが、例えば1年生に図書館オリエンテーションをすると、その時に1回は図書館に来る。その時「借りてください」と言えば大体借りてくれる。いろんな本があると知ってもらえばまた来る機会も増えるので、オリエンテーションさせてもらった後は少し利用が伸びている感じがする。週一回、何曜日は基本的に読書の時間にするなど、読書の時間が確保されていると数字も変わっていくのではと思う。

委員長 確かに全国平均は小学校4、5、6年生の抽出なので低学年が含まれていない。その差もあると思う。

委員 デジタル機器やスマホなど、ネット関係のゲームを家でやっている子が多いが、ゲームキャラクターや話の元には、結構世界各国の神話や伝承、古典が使われているので、元々はこんな話ということを知らない子たちに教えることで、読書活動につなげていければいいと思う。

委員 例えばアニメなどで文豪たちが戦うものがあるが、そのキャラクターがついた表紙で出版物を展示すると、どんどん本を借りていった。

委員 今年度も中学1年生にオリエンテーションをした時、そういう本を見ていた。何人か近代文学の人名を出してきて「読んでみたい」と言われたこともある。

委員長 利用できるものは上手に利用しつつ紹介していきたい。

委員 今の話を聞くといろいろなアイデアがあると思うが、学校図書館の充実を考えるならばやはり学校司書が必要。全中学校に配置してほしい。長期的に配置されればその地域の状況、学校の状況、子どもたちのことがわかり、小学校と中学校をつなげることができるのではないかと思う。

副委員長 そうなれば絶対学力は上がると思うし、近道なのではないか。

委員 中学校へは現在、一応毎年、全校に学校司書が行っているが、月1回ペースの勤務なので、行く日の調整に時間がかかったり、ニーズにタイミングが合いにくい。すぐには変わらないと思うが、中学校区単位での配置は、とてもやりやすいしありがたい。すぐに増やすことは無理とわかっているので、そういう方向性でやっていただけたらと思う。

委員長 やはり人と人とのつながりが非常に大事だと痛感した。他にもご意見があるかと思うが、いろんな委員の方のご提案、ご意見を参考に、福岡市の子ども読書活動が推進されるよう、行政はもちろん私たちもしっかり取り組んでいきたい。